



2015~2016

国際ロータリー第 2730 地区

週報 佐土原ロータリークラブ

会長：日高邦孝 副会長：岩切正司 RI2730 地区ガバナー 野中 玄雄
 幹事：林 厚雄 会計：竹下 隆 中部分区ガバナー補佐 橋口 正樹
 事務局：吉野由里子 会報委員：荒武義博 RI 会長テーマ『世界へのプレゼントになろう』
 例会場：ジェット・グラデーションビル 5F 2730 地区テーマ『奉仕は力！活かそう例会』
 例会場住所：〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 クラブテーマ『』
 例会場 TEL：0985-21-1133・FAX 0985-21-1024
 事務局住所：宮崎市佐土原町下田島 11703-18 TEL0985-62-7833 FAX0985-62-7877

RI テーマ
世界へのプレゼントになろう

第 1382 回例会 平成 28 年 2 月 3 日(水)

<<本日のプログラム>>

- 1.点 鐘
月初め 国家斉唱
- 2.ロータリーソング「奉仕の理想」
※4つのテスト唱和
- 3.「会長の時間」=日高 邦孝君
- 4.幹事報告=林 厚雄君 5.出席報告=靱田直樹君
- 6.ハッピーBOX 披露
- 7.委員会報告～
- 8.会員卓話「吉田 康一郎君」
- 9.SAAより次週の案内
会員卓話「正岡 文郁君」
- 10.点 鐘
理事・役員会

第 1381 回例会記録 平成 28 年 1 月 27 日(水)

■ 会長の時間



会長●日高 邦孝君
 皆さんこんにちは、先日林幹事と延岡東RC50周年記念式典・祝賀会～2次会まで参加して参りました。受付からカトレア会の皆様が丁寧に迎えて下さいました。総

勢 400 名の参加で素晴らしい式典と祝賀会でした。佐土原RC2年後の30周年に向けて時間配分等も含め色々大変勉強になりました。プログラムもありますので皆で検討して準備を始めましょう。式典・祝賀会終了後～二次会会場に向かいました。9クラブの中で宿泊して参加したのは我々だけでした。一つのビル内のスナックを3店舗貸しきり行われました。その中でも野中ガバナーは私達を直ぐに見つけて声を掛けて下さいました。2次会でも色々な方々と交流し情報交換も出来ました。その中で一つ、例会の時間配分についてですが、12:30から食事を始めて13:00～13:30で例会を行い出席率も上がったというクラブの話をお聞きして一つの案として今後検討するのも良いのではないかと思います。最後になりますが本日正岡君より財団へ寄付金

1.000 \$ を頂きました事を報告致します。

■ 幹事報告



幹事●林 厚雄君
 先ほど会長が話されましたが延岡に行つて参りました。二次会にもカトレア会の方々も2～3名来て下さいました。受け付けの時もそうでした

が一生懸命接待して頂き大変感動しました。こんなお店なら何度行っても良いな！！思いました。笑

<文書報告>

- * 西都RC～2月度例会案内
- * 第3期RLIパートIIについて緊急のお願い
- * ロータリー勉強会第11回へ参加再度ご案内

会員数	25(1)	出席数	20名	出席率	84.0%
免除会員	1名	欠席数	5名	メイク	1名



■出席報告

●靱田直樹君

■ハッピーBOX披露

●宮原 建樹君

■ハッピーBOX披露

<財団へ>

- 正岡 文郁君～PHFへ1.000 \$ 寄付します。
- 岩切 正司君～例会出席に励みましょう
- ★☆2016年1月度 財団へ1.000 \$ PHF★☆
- ★梶田 與之助君
- ★正岡 文郁君 ♪おめでとございます♪

■委員会報告

社会奉仕委員●岩切 正司君
 新しい会員さんも増えておりますので「あじさい賞」についてお話をして下さいとの事ですからお受けしてお話しさせていただきます。これまで社会奉仕の分野で表彰したり職業奉仕の分野で表彰したりと毎年必ず表彰している訳ではありませんが私が今ま



でで1番表彰して良かったと思うのが西佐土原にございます300年以上前から食べられている佐土原地元の銘菓「鯨ようかん製造本舗の坂本」さんです。昔ながらの製法を守り続

け手作りで薪から炊いて杵と臼で餅をつき一つ一つ手作りで1日に30パック程しか作れないとの事です。ですから予約をしないと買えない状態で午前中にはいつも売り切れております。しかしそれでも本業にすると生活は成り立たないという事で近年では坂本家の女性が副業として守り続けておられます。しかしそれでも続けて行きたいと思えるやりがいある職業に就いておられると言う事は人としては何より幸せな事だと思います。そのお店にたった一つ賞状が飾ってあったのが佐土原RCで贈呈した「職業奉仕賞 あじさい賞」の賞状です。今後もこのような方々を皆さんで見つけて表彰してさしあげる事が一番あじさい賞に相応しいと思います。

●会員卓話



●柳田 光寛君
私の店では最近、ペットの骨壺を買いに来る方が結構います。週に2~3人でしょうか。良く聞かれるのが例えば中型犬だがどれくらいの大きさの壺が良いかとか聞かれます。人間は全部持って帰りませんがペットは全て持って帰りたいようです。一度はハムスター用にと小さい壺を買われましたが骨が残るのかな？と思って販売した次第です。でも一番気になるのがその後どうするのか、人間の墓には入れられないからどうしているのでしょうか？そういえば市内のある葬儀社さんがペット用の納骨堂を作る話があるようです。みなさんペット買っている方いると思います、私の知っている中では藤堂さんは犬、荒武さん・宮原さんは猫と記憶しています。よく犬派・猫派と言われますが最近では猫が犬の人気を上回っているようです。その理由としては、散歩が無い・うるさく吠えないなどで特に高齢の方に支持されているようです。実は我が家ではウサギを飼っていますもちろん家の中です。まったく鳴かないし臭いも無いし散歩はもちろん必要なトイレも覚えます。普通はケージの中ですが外に出すと名前を呼ぶと寄ってきて足元にじゃれ付き可愛いものです。月のシンボル日本には古来より、ウサギが月に棲むという説話が仏教道説話あるいは民間説話として伝わっている。たとえば、仏教的説話を多く題材にとる『今昔物語集』第五卷第十三話「三

の獣、菩薩の道を行じ、兎身を焼く語」には、次のような捨身慈悲、滅私献身の象徴としてウサギが描かれ昔むかし、天竺（現在のインド）にウサギ・キツネ・サルの3匹の獣があり、ともに熱心に仏教の修行に励んでいた。そこに、今にも倒れそうで見るとみずぼらしい老人が現れ、養ってくれる家族もなく貧しく食べるものもないと3匹に訴えた。そこで、サルは木に登って木の実をとってきたり、里に出て里人の果物や野菜をかすめてきて老人に与え、キツネは川原へ行って魚をとってきたり、墓に供えてあった餅や飯をかすめてきて老人に与えた。サルは枯れ枝を拾い集め、キツネがそれに火をつけて、食事の支度を始める。その一方で、ウサギは野を駆けずりまわり東西南北あちこちを探し求めたが、老人に与えるものは見つけれず、手ぶらで帰ってくるしかなかった。そんなウサギを見て、サルやキツネそして老人までもが、ウサギを嘲笑し、罵った。しかしウサギは言う。「確かに己には食べ物も奪って持ってくる力はなかった。ですから、この身を焼いてお食べください」と。そう言うがはいか、ウサギは火の中にとびこんだ。この様子を見ていた老人は、たちまちにして本来の帝釈天の姿に戻り、すべての生き物たちにこのウサギの善行の姿を見せるために、月の中にウサギを移した。今でも月には煙のような雲影とウサギの姿があるのはそのためである。すべての人が、月を見るたびにこのウサギの行動を思い起こすように。帝釈天とは・・・釈迦時代以前から古代インドでまつられてきたが、多くは各地の民族や部族の神々であった。それらの民族神は作物豊穰から魔物退散などの他に、特に戦勝を祈る好戦的な神々が目立ったため、仏教經典においては、好戦的な神々をもブッダの威光に服し、仏法のもと人々を守護することを誓ったと説く。そうして仏教を信仰する国の人々を守護する、守護尊となったとされる。変速機構において Hi-Lo の意味でウサギと カメ の絵が描かれる例は多く存在する。例えば 建設機械 の変速機構操作には JIS規格 としてウサギとカメの絵が描かれているほか、ミシンの速度調節としてもウサギとカメが用いられている。また 日産自動車 のブランド「ダットサン」の「ダット」の部分に関して、関係者のイニシャルとともに速く走ることのたとえである「脱兎」が由来になっているとされる

4つのテスト
『言行はこれに照らしてから』
1. 真実かどうか。
2. みんなに公平か。
3. 好意と友情を深めるか。
4. みんなのためになるか どうか。

メモ